

特集

備えて安心!

## 住まいの防災を考える



住まいのニュースでは、暮らしに役立つ話題をご紹介します!  
今回は、地震や火災などの災害に強い家づくりについてご紹介します。

9月1日は「防災の日」。地震などの天災、また火災などに強い住まいづくりには、どのような点を押さえれば良いのでしょうか。安心して長く快適に暮らせる家をつくるために大切なポイントをご紹介します。

### ●プランニングから考える、地震に強い設計とは

木造の住宅の場合、耐震上、重要なのが「耐力壁」。横からの力に抵抗する力をもつ壁のことで、平面上で直線状に通すことと、上の階の水平力が下に伝わるよう、壁の位置を上下階で重ねることが大切です。新築する際には、平面と断面でそれぞれ壁の位置がそろっている方が望ましいといえます。また、耐力壁に空ける窓などの開口部も耐震性に影響します。日光を取り入れる南側は耐力壁が取りにくいので、注意が必要。横長よりも縦長の窓のほうが壁の断面積を確保できるので有利です。また、確実な避難のため、玄関ドアを耐震性のあるものにしておくことも検討すると良いでしょう。

### ●壁と天井に注目、防火に配慮した家づくり

万一の火災に備えた家づくりも考えておきたいもの。内装材は不燃材料であるほうが有利ですが、燃えやすい家具で壁が覆われていると効果がありません。部屋の収容物は少なくすると同時に、カーテンや寝具なども燃えにくい素材を選びましょう。燃え広がりにやすい天井、食用油を使う台所のコンロ周辺は、不燃材料にしておきましょう。下階で火災が起きた場合、階段や吹抜けが煙の通り道になる恐れがあり、上階に寝室があると階段が避難に使えなくなることも考えられます。寝室と廊下・吹抜けをドアで明確に分けるなど、設計段階から配慮した上で、就寝前にはドアを閉めるようにしましょう。また安全を確保するため、2方向から避難できる設計が望まれます。2階建や3階建の場合、できれば階段を二つ設けることが理想。または窓やバルコニー、屋根やひさしなどから避難できるように想定しておき、避難用ハシゴを備えておくとうれしいです。

### ●地震や雨風を防ぎ、性能劣化の少ない「FPパネル」

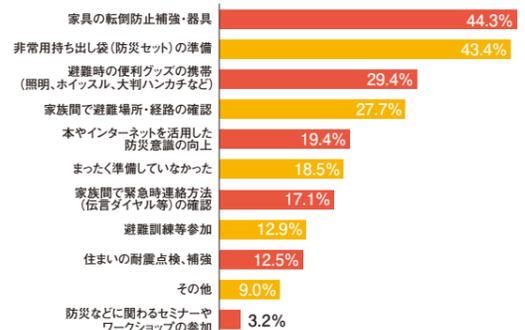
「FPの家」の壁は、柱と梁で構成された構造体に「FPパネル」を組み込むFP軸組工法。グラスウールなどの約2倍の断熱性能があり、FPパネル自体が強度を持ち、構造体と一体となって建物の耐久性、耐震性を向上させることが大きな特徴です。FPパネルは、水発砲硬質ウレタンフォームを注入し、一体成形した硬質ウレタン断熱パネル。内部に筋かいを付けたもので構造用面材を貼ったものなどもあり、地震や台風などから家を守る構造材の役割を果たすことができます。耐久性に優れ、性能劣化がほとんど見られないのもメリット。構造体の痛みの原因となる結露に強く、外壁側には通気層を設け、外気を取り入れて湿気を防ぐことで、カビや腐れをシャットアウトしています。長く安心して暮らせる家づくりには、「FPの家」も有力な選択肢のひとつ。実際に見て触れられる工場見学会も実施していますので、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

## なるほど! 納得ノート

### 第23回 災害の「備え」として準備するもの

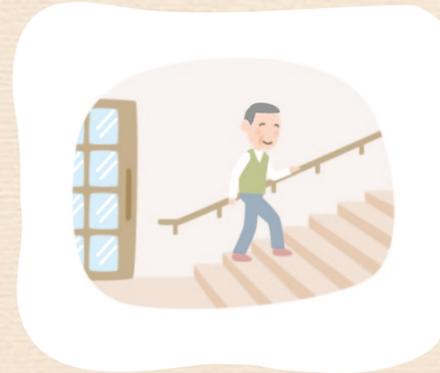
東日本大震災前から「備え」として準備していたこと(物)を聞いたアンケートでは、「家具の転倒防止補強・器具」「非常持ち出し袋(防災セット)の準備」が多かった反面、「まったく準備していなかった」が19%を占め、十分備えのできていない世帯があったことが伺えます。新たに備えたもの・備えようとしているものには、水、懐中電灯やヘッドライト、レトルト食品、電池、ラジオなどが挙げられました。非常時に幅広く役立つ、ラップやポリ袋なども注目されたようです。

### 日頃から、「備え」として準備していたこと(物)はありますか?



N=2,554  
出典:「防災についてのアンケート」無印良品 ぐらしの良品研究所より 調査期間:2011年6月22日~30日

## 家づくりの知恵袋



### 第23回 バリアフリー

将来に備え、バリアフリーに配慮した住まいづくりを考えることはとても重要ですが、必ずしも新築時にすべてを見越して備える必要はありません。床の段差をなくしたり、引き戸にしておくことなどはぜひ押さえておきたいポイントですが、車椅子が必要にならなければ幅の広い廊下も不要ですし、手足にまひが出た場合も、それが左右のどちらかで必要な手すりの位置が変わってしまうなど、障害が出た後、個別に対応していかなければならない場合が多いのです。

設備や間取りなどを必要に応じて変更できるようにしておくことが大切。将来、トイレに改造できるよう寝室に広めの収納スペースを確保したり、リフォームに備え、水回りの壁は変更しやすい構造にしておくなどの工夫が望ましいでしょう。新築時に必要のないコストを抑えることにもつながります。

我が家のお悩み診断!

## Dr. 住まいの

今月のご相談 身近なもので部屋の臭いを消すには?

Q. 家の中にいると、なんとなく漂う部屋の臭いが気になります。お客さんを呼ぶのも心配…。手軽に臭いを消す工夫はないかしら?

A. 一度、気になりだしたらなかなか止められないのが部屋の臭い。市販の芳香剤や消臭剤もありますが、身近なモノを使って手軽に消臭できるのをご存知でしょうか。粉末の入浴剤を少量床に撒いてから掃除機をかけると、排気とともに部屋に香りが広がります。茶殻をお皿に入れて置いておくのも有効。様々な臭いがつきがちなカーテンには、重曹をぬるま湯で薄めてスプレーすると効果的です。

## 聞いて納得! アイデア暮らしの アイデア 第23回

今月のアイデア 食品用ラップの活用法

停電や災害時に備えて知っておきたいのが、様々な代用となる食品用ラップの活用法。断水で水が不足するときは、食事の際にお皿にかぶせれば、洗う必要がありません。切り傷には、包帯の代わりに巻いて汚れや感染を防ぐこともでき、包帯の上から使えば、水から傷口を守ることもできます。また忘れてはいけないのが、用を足すとき、便器の上や穴を掘って使用し、ラップに包んで捨てれば、水を使わず、臭いの心配もありません。非常時の持ち出し袋には、ぜひとも備えておきたいアイテムですね。



おうちで気軽に始めよう!

## 住まいの風水

第23回 仏壇を置く場所の考え方



今回はお彼岸にちなんで、家づくりのときに注意すべき仏壇の設置場所について取り上げます。

まずは両鬼門である北東、南西を避けること。西方浄土の考えから、仏壇は家の中の北または北西に置き、東または南に向けるのが良いとされます。また、仏壇の裏側の壁の向こうは家の外となるのが望ましく、トイレ、浴室、洗面所などの水まわりが来るのは凶。真上の階に廊下や居

室があったり、上から踏みつけるような配置になることも避けましょう。エアコン、直射日光が当たらないようにすることも大切。家族の生活空間から隔離された場所ではなく、普段の暮らしの中で身近な場所に置いておきましょう。

仏壇は故人やご先祖様を敬う場所。親戚や家族が気持ちよく集まるためにも、家づくりの段階からあらかじめ考慮しておきたいものです。